

保育実践研究を問う

—「そこにしかないただひとつの実践」と「研究」のあいだの困難をどう超えるか—

企画者：古賀 松香（京都教育大学） 司 会：掘越 紀香（奈良教育大学）
 話題提供者：古賀 松香（京都教育大学） 松本 信吾（広島大学附属幼稚園）
 佐藤 寛子（お茶の水女子大学附属幼稚園） 大倉 得史（京都大学 *非会員）
 指定討論者：本山 方子（奈良女子大学）

【企画主旨】

保育実践とは、独自の存在である実践者が、それぞれ独自の存在である子どもを、ある環境の中でかわることを通してはぐくもうとする営みである。その営みについて、何をどのように明らかにすることが、保育学において意味のある研究となりうるのだろうか。そこにある生と共振する身体的実感から乖離せず、体験世界の言語化と個別理解の深化にとどまらない、普遍的本質に迫る保育実践研究の成立可能性を探る。

【話題提供】

日常的な実践の理論を探して 古賀 松香

保育実践は、子どもと保育者間相互の意味生成プロセスである。子どものある行為をみて「何だかよくわからないけれどもこれは受けとめなければ」と保育者が動くとき、漠とした「何だかよくわからないもの」に意味づけが始まる。そして、その行為は相互のやりとりを通して意味づけられていく。このように保育実践の意味生成プロセスは、前言語的なその場その子どもの質感から始まり、またその質感に支えられている。それは当然ながら、一回限りの個性的なものの連続体である。

では、その「そこにしかないただひとつの実践」は、保育学の知を提示する「研究」となるために何が必要なのか。心理でもなく社会でもない、「保育」という実践そのものを主題とした学問における「実践研究」とは、どのような知の地平をひらくものなのか。これまでの実践研究のあり方に関する保育学内外の議論を踏まえ、保育学の独自性の中で「日常的な実践の理論」の探求がどのように可能になるか考察する。

『実践研究とは?』 松本 信吾

私の勤務園は、その特性から実践を文章にする機会が多いが、実践を描く目的は大きく2つある。1つは、保育実践を外に発信するためである。自分たちが行っている保育の中身を伝えたいという思いからだ。しかし、実践はやりとりの積み重ねや気持ちの絡み合いから成り立っており、それを描くことは容易ではない。結果的には切りとられたわかりやすい子どもの姿を伝えがちになる。もう1つは自らの保育を振り返るためである。実践を思い返し丁寧に描くことで、自分が今まで気づかなかった子どもの姿や保育の癖などに気づくことがある。しかし、これらは基本的には外に発信

するものではなく内輪に閉ざされているものだ。

つまり、外向き、内向きいずれも実践研究とは言えないのではないかと感じる。実践者としてどのようなものを描くことが、実践の手応えをもちつつ、他者に対しても意味のあるものになり得るのか。そのことを一緒に考えたい。

子どものまなざしに寄り添う 佐藤 寛子

子どものじっと見入る姿、興味をもった対象に注がれるまなざしに出会うたびに、彼らは何を見、何を感じているのか、そこにどんな対話があるのだろうかと考える。子どもの傍らに身を置き、心を寄せ、視線の先にあるものを一緒に捉えることができたとき、今、その子どもと出会った意味をそこに見出すことができるように思う。子どもたちを取り巻く環境や関係性のありように意識を向け、流れる時間の中で、一人ひとりの子どもたちがその人らしく豊かに生きていくことを願いながら、その子どもの「今」と関わるのが保育であろう。言葉にならない身体レベルでのやりとりの中でこそ感じ得た、子どもたち一人ひとりの思いの理解を、どのように意識化、言語化していくかが課題であると感じている。実践者の一人として、「関わる」ことを軸に、子どもの「見る」という行為に着目し、テーマについて考察したい。

エピソード記述の「広がり可能性」とはいかなるものか 大倉 得史

近年、保育の現場でエピソード記述(および検討会)が有効であることが徐々に認識されてきている。これは保育の具体的な一場面を掘り下げ、子どもと保育者の気持ちの交流や、子どもの心の育ちを描き出していく方法である。「研究」という視点からは、しばしば客観性や一般性がないと揶揄されてきたこの方法が、保育の現場で「役に立つ」と認識されてきているのはなぜなのか。恐らくそれは、エピソード記述が何らかの形で読者に訴えかけ、次の実践への糧となるという意味で、従来型の「客観性」や「一般性」とは違った「広がり可能性」を有しているからであり、従来型の「研究」からこぼれ落ちている「大切な何か」がそこに含まれているからであろう。

一体それはどういうことなのか。「そこにしかないただひとつの実践」から実践者や研究者は何を得ることができているのかについて考えていく。